

安全ワークショップ特集

カイトケーション

10 月 31 日（土）、11 月 7 日（土）の 2 日間にわたって、安全ワークショップを行いました。安全ワークショップでは、「カイトケーション」を合言葉に、お互いがほどほどに快適に過ごすためにはどのように想像力をはたらかせて行動すればよいかということ、短い演劇を鑑賞して考え話し合うことを行いました。カイトケーションとは「快適」+「コミュニケーション」からできた海城での安全ワークショップ内でできた造語だそうです。

今回の演劇は、山手線の車内が舞台でした。C さんが座っている車内に、友人同士である A さんと B くんが乗ってきます。2 人は大声で話出し、扉を塞ぐように荷物を置いていました。電車が駅で停車し降車しようとした C さんと、A さんと B くんがトラブルを起こしてしまいました。

観劇の後に、トラブル回避をするためにどのようなことができたのかを生徒同士で話し合いました。さらに、A くん・B くん・C さんにそれぞれどうすればトラブルにならなかったのかを 3 グループに分かれてアドバイスをしました。その後、アドバイスを参考にしながら、もう一度車内での演劇が行われました。果たして、トラブルは回避できたのでしょうか。

海城では、ほとんどの生徒が電車通学をしています。似たような場面に遭遇した生徒もいるのではないのでしょうか。演劇では、第三者目線でトラブルを見ることができました。実際に当事者になったときにも同じように周囲を観察し想像力をはたらかせて「お互いがほどほどに快適に」過ごせるように振る舞ってください。



電車内での様子



観劇後の生徒同士の話し合い



生徒から A くんへのアドバイス



生徒から B くんへのアドバイス



生徒から C さんへのアドバイス



講師の方からのまとめ

・生徒感想文

僕は、今回の安全ワークショップで、普段何気なくしている事が、実は周りに迷惑をかけてしまっているかもしれないということが分かった。

例えば、荷物が多かった日の事だ。荷物が多いと、周りから嫌な目で見られ、あまりいい気分ではなかったが、よくよく考えてみると、電車の乗降の際に邪魔になっていなかったかどうか聞かれると、「はい」と答えられるという自信はなかった。

そのため今度からは、自信を持って「はい」と答えられるように周りによく注意し、快適で楽しい学校生活を送りたいと思う。

ワークショップが始まって、「カイトケーション」という言葉を知った時に快適とコミュニケーションを合わせた言葉であると説明を受け、驚いた。なぜなら、僕は今まで電車内のようなところで「快適」に過ごそうと思ったことがなかったからだ。そのあと、劇をみて、自分のいつもしている行動を振り返ってみると、当てはまりそうなところがいくつかありそうだと気づいた。例えば、僕は部活帰りで疲れている時なんかはリュックを背負ったままで電車に乗車したことがあるが、その時は周りのことなど気にしていなかった。このようなことがトラブルにつながるのだと知り、次から気をつけようと思った。

僕は、安全ワークショップで、電車内でのトラブルが怖いということに気づき、そうならないための対処法についても考え、これからの通学の時にも活かそうと思った。

僕は、劇の中でのトラブルはまだ大きくなならないうちに終わったけれど、それがもっと大きなめごとになったらどうなっていたのだろうと思った。また、その場合の対処法についてもじっくり考えてみたい。

電車の中という身近な環境を舞台として劇をしてくれて、とてもわかりやすかった。自分のことを振り返る良い機会になった。

また、僕は注意する側であるCさんには一切非がないと思っていたが、Cさんにもやりようがあったことを知れて、良かった。

この安全ワークショップで習ったカイトケーションという言葉を中心掛けてこれから過ごしていきたい。

僕が安全ワークショップを終えて驚いたことは、最初はAくん、Bくん、Cくん全員が嫌な思いをしていたけれど、それぞれが少しずつ行動を変えることによって、トラブルを避けることができ、全員が快適に生活できていたことです。

これによって、少しでも行動を変えることによってトラブルを無くせることが分かりました。僕もこれからは自分の行動が他人の迷惑にならないかどうかよく考えて行動することによってトラブルを避けて、全員がそこそこ快適に生活が出来るようにしたいです。

今回の安全ワークショップによって、自分の知らないところで人が不快に感じているかもしれないということを考える必要があるのだと感じた。すべて人たちが快適に暮らすために自分もこれから気にかけて生活したいと思う。

今日、ファシリテーターの方々に来ていただき、安全ワークショップと題して快適なコミュニケーションについて考える機会をいただいた。

3人の役者が演じる、ABCそれぞれの立場から改善すべき点を考えて、お互いができる限り快適になれるようにするにはどうすれば良いかということを考えて。

もっと考えを深めてみたいと思ったので自宅へ帰ってからインターネットで調べてみると、快適なコミュニケーションと似たような意味で、「アサーティブ」という言葉がでてきた。

アサーティブとは「相手に配慮した自己主張」という意味で、assertiveness という英語から来た言葉である。

1960年代以降のアメリカ人権運動の土台となった思想だそうだ。

周りの人のことを気にせず、開くとびらの壁に荷物を広げ大声で喋っていたA

Aに連れられ扉の前で喋り、注意されても知らぬ顔をしていたB

以前もうるさい学生と電車の中で一緒になって、モヤモヤした気持ちでいたところ、再びABといううるさい学生に出会い、注意を強く言いすぎてしまったC

それぞれがアサーティブの心を持って行動していれば快適なコミュニケーションに近づくことができたのでは無いかと思った。僕も電車の中でリュックが他の人にぶつかってしまうことが稀にあるので、ぶつかってしまった時は素直に謝るなどして、登下校中や学校内、公共の場において、アサーティブを忘れずに生活して行きたいと思う。

ファシリテーターをはじめ、安全ワークショップを開催してくださった皆様、ありがとうございました。

今回のワークショップの中で、クラスを3グループに分けて、トラブルが起きたときの例としての演劇の中の登場人物がトラブルを回避するための解決策を考えるという時間がありました。このように、参加者がただ話を聞くのではなく、参加者が主体となって解決策を考えることで、よりその問題に対する理解が深まり、意見を共有しやすくなりました。

また、演劇という形でトラブルが起きたときの例を挙げさらに、私たちの興味を引きやすいような演出をし、楽しく参加できるような環境を設けてくださったファシリテーターの方に感謝したいです。

少し伝える口調を変えるだけで印象が大きく変わる事をこれまであまり実感したことがなかったので、とてもいい経験になった。また、自分もA君やB君のように周りに迷惑をかけることがないように周りに気を配ることが大切だと思った。

今日の一限目にあった「安全ワークショップ」という授業では、皆が「快適」に過ごせるような「快適」と「コミュニケーション」を組み合わせた「カイトケーション」という言葉をテーマに電車内のシチュエーションを劇を通じてわかりやすく見て、どのようにしたら良いかを考えた。

特にそれぞれの登場人物と話し合い、それぞれのキャラクターの心境や行動の理由を考えるのが面白かった。

今後は自分の行動が知らないうちに他人に迷惑をかけていないか考えるようにしたい。とても勉強になったと思う。

コミュニケーションが人を快適にする

先日の「安全ワークショップ」では、ちょっと油断するだけで自分たちの身にも及びかねない危険について学ぶことができた。その中で僕が一番気を付けなければならないと思ったのは電車の中での会話がうるさくなくなってしまうことだ。演劇を見ていてこそ周りの人に迷惑が掛かっていると分かることができたが、もし自分が夢中になって話していたら気づかないんじゃないかと思った。また、もし周囲に迷惑をかけてしまいそうになっても、コミュニケーションによってその場をより良い方向に持っていけることや、その方法を考えられた。安全の専門家の方は、周りをよく見て、程よい快適を手に入れるのが安全というものだとおっしゃっていたが、そのためにどんな場所でも、いったん冷静になることを心がけ、周りの人に迷惑をかけないようにしたい。

僕は今回の安全ワークショップで面白かったことと感じたことがあります。

面白かったことは、安全ワークショップの人達の話が相づちなどが入ることによって聞き取りやすく、少し笑えるところもあったからです。

感じたことは、周囲を見るのが大切だということです。それは、他人に迷惑をかけていることやその前に気づけることができるからです。

この安全ワークショップは、楽しさと改めて感じる事があっていい体験になったと思います。

今回の安全WSでは「カイトケーション」をテーマに、俳優さん達の劇を見てどう改善すべきかを隣の人と話し合った。話していくと、そのトラブルの加害者側だけでなく、被害者側や傍観者側にも言い方などで改善すべきところがあると分かった。ここにお互いが快適に生活できるようにコミュニケーションが必要だと考える。ちょっとしたことでトラブルは起こるが、すぐに謝ったり、どこが嫌だったかを相手に話したりすることで、すぐにそのトラブルが解決にすると私は考えた。

今回の安全ワークショップは僕が予想していた”安全”とは全く別の物を学んだ。

僕の中での”安全”とは簡単に言うと”危険”の対義語であり、つまり人々が危険で無いように行動する事であった。

実際は大きく変わっていた『自分と他人がほどほどに快適なようにする』事が”安全”の真の意味であると実感した。これが最も僕にとって印象的であった部分である。

これ以降、僕は『どうすれば他人も自分も快適なのか』をより意識するようになった。例を挙げると電車内でのリュックの置き方や、不要な手に持つもの（ナップサックなど）を網棚に上げたりと驚くほど変化して、多くの学びを得た。

今後も様々な経験を積んで学びを増やして行きたい。

僕はこの安全ワークショップに参加して驚いたことがある。それは、ワークショップをしてくださった普段演劇の仕事をしている方々が強調していた「こうしましょう、で終わらず、それを解決するとどうなるかを再現する」ということではない。それに少なからず驚き、賛成したのも事実だが、僕が最も驚いたのはそこではなく、ストーリーの登場人物の立場の単純明快さや、ストーリーのリアルさだ。

小学校の頃もこのように他人とのつながりについて考える「道徳」という教科はあったのだが、たいていそれは登場人物の立場が複雑すぎたり、どちらが「悪者」のように判断できてしまったり、実感の湧きづらい状況だったりした。そういう授業ではおおかた、言い方は悪いかも知れないが「いい子ぶりっこ」と言われるような生徒がもっともらしい意見を言って、最終的な意見の提出用紙にはほとんどのクラスメイトがそのもっともらしい意見を真似し、それによく似た意見を書くのだ。「いい子ぶりっこ」の真似はしなかったにしても、僕もそういった「きれいごと」のようなものを書き連ねるような状況だったのを記憶している。

しかしこの安全ワークショップはどうだろう。ストーリーの舞台は「電車」。海城の生徒ならほとんどが使うであろう交通機関だ。登場人物は大きな荷物をたくさん置き、乗車口付近で大声で話す学生2人。そしてその2人のそばで居心地悪く思う女性。毎日の身近な場所のストーリーだ。これではとても実感が湧きやすいのではないだろうか。実際自身の車内トラブルの体験を活かして意見を言うことができた。すぐに意見が頭に浮かんできたのだ。

道徳など、実際に自分だったらどうするのかを考える教科では、例となるストーリーの単純さ、身近さが大切なのではないだろうか。僕はこの安全ワークショップを通じて、こう考えた。

身近な空間の中で発生した出来事をベースにして、どうすべきか考えるものだった。グループに分けて、それぞれのグループに発生した出来事に登場した人物が来て、登場人物にアドバイスをするという方法なので、お互い一対一で話し合うことができる。なので、最初に考えたものからより良いものになったり、登場人物の性格の都合上できなかつたりするなどの、話し合わなきゃ出ない答えもあった。自分だけではできないことを他人と一緒に連れて、他人を考える良い機会になり、とても楽しかった。

終